

# 常にマイノリティの視点を持ち、社会から取りこぼされる人々を救いたい。



山口まどか

MADOKA YAMAGUCHI

赴任地

 エルサルバドル  
赴任地での職種(活動分野)  
防災・災害対策

兵庫県神戸市  
NPO法人多言語センターFACIL

大学を卒業し、一般企業で働いた後、西宮市の消防士に転職。8年間勤務し、次のステップを考えていたときに、偶然「防災・災害対策」職種での要請を発見し、JICA海外協力隊へ応募。エルサルバドルで活動する。現在は、NPO法人多言語センターFACILに勤務。

## 外国人として暮らした経験を、地域の多言語化・多文化共生のために。

FACILは、阪神・淡路大震災での在日外国人向けボランティアがきっかけでできた団体。様々な通訳や翻訳を仕事として引き受けつつ、病院での通訳を患者さんが負担しやすい料金で提供する仕組みづくりなど、社会貢献事業を行っている。また、依頼を受けた業務を日本に住んでいる外国人に発注することで雇用創出にもつなげている。

「帰国後、エルサルバドルで活動した経験を活かし、多様な人に多

様なかたちで関われる仕事がしたいと思った」と山口さん。現在は、同社で依頼主と翻訳・通訳者をつなぐコーディネーターとして活躍中だ。JICA海外協力隊で外国人として暮らしたからこそ母国から離れて暮らす人の気持ちがわかる。現地の人から受けたやさしさの喜びを知っている。だから、今度は日本で暮らす外国人の人々のためにも、地域の多言語環境の促進に貢献したいと力を尽くしている。

## 市民のトラブルのために スタッフの一員として即戦力で活躍。

山口さんが活動期間中の大半を過ごしたのが、サンビセンテ市役所の危機管理課。日常業務のサポートとして、市内の危機管理全般、水路清掃、火災や倒木の対応をはじめ、各地の学校での防災教育、市職員への救命講習など、市内を忙しく飛び回った。それはまさに「街でトラブルがあれば出かけていく何でも屋さん」。山での作業での昼食は野生フルーツを自分でちぎって食べたり、木に登って作業するのに命綱がなかったり、消防士をしていた時は異なるハードさも。「最初は経験したことのない暑さや衛生環境に体調を崩しがちでしたが、帰国時には日本にいた時よりたくましく健康になっていました」と振り返る。



サンビセンテ市での山火事消火活動支援

サンビセンテ市での水路清掃活動支援



サンビセンテ市内の学校での防災授業

## 同僚として、友人として、 出会えたすべての人々に感謝。

多忙な日々にも「職場のみならずチームワークも良く、一緒に過ごせた時間のすべてが楽しかった」と山口さん。同僚は性別も年齢もバラバラだったが、毎日顔を合わせているうちにどんどん仲良くなっていった。また、オフを利用して地域のバスケットボールチームに所属したことで友人も増えた。「病気になったら誰かが食べ物を持ってきてくれ、困ったことがあると必ず誰かが助けてくれた。日本人としてではなく、現地の普通の友人として接してくれたことが本当にうれしかった」。帰国した今も、彼らとは頻りにオンライン上でやり取りをし、クリスマスにはプレゼントを贈り合う仲だ。

## 「やった方がいいな」と思ったことは、 必ず提案し、挑戦してみる。

現在の職場との出会いはまさに「運命」。通常、NPO団体が常勤スタッフを募集することはほとんどないが、山口さんがハローワークを訪れたタイミングで偶然求人票が出ていた。「私はJICA海外協力隊の経験が活かせる仕事が、FACIL側も希望通りの人材がすぐに見つかったので、お互いに縁だと驚きました」。

JICA海外協力隊に参加したことで、日本社会を一步引いて客観視するようになり、日本の当たり前にとらわれなくなったと山口さん。そんな考えを受け入れてくれる懐の広さが今の職場にはある。「誰かの役に立ちそうであれば、すぐに、何でもやらせてもらえるのは大きなモチベーションです。本当に困っている人を優先的に助けられる。公務員や大企業だとそうはいかない」。



山口さんの働きぶりや提案力には同僚も一目を置く

## 困っている人を助けることは、 自分たちを助けることになる。

エルサルバドルでの日々は、人と人、人と動物、人と自然の距離が近く、また生と死が隣り合わせだった。「日本では一人で何でもできることがよとされる。でも、そんな能力は自慢にもならない。むしろ自分の周りに助けてくれる人がいないことが本当の恐怖だと知った」と山口さん。

「今の時代、外国人に限らず、誰がいつマイノリティになるかわからない。マイノリティの人をそのまましておかない社会にしたい。それは結果的に日本社会を救うのと同義ではないかなと思っています」。これからも立場の弱い人の視点に立ち、様々な「気づき」を地域や行政に発信していきたいと考えている。

同僚に  
聞く!



NPO法人多言語センターFACIL 事務局長  
李 裕美さん

初日からただ者ではない働きぶりです。「何も教えなくても自分で調べてできてしまう人なんだ」と目を見張ったのを覚えています。その後も期待を裏切ることなく、素早い行動と的確な判断力を発揮しています。現在も大学院で防災について研究されるなど、その努力に頭が下がります。これからも思う存分に力を発揮してください!

## JICA海外協力隊を目指すみなさんへ 一生懸命の2年間は、自分を変えてくれる。

任地も、人間関係もそれぞれだと思いますが、とにかく元気にたくさんの友人を作ってください。日本にいたら知り合うことなかった人たちとの出会いは一生の思い出ですし、2年間自分の無力さと向き合い、試行錯誤しながら異国で一生懸命生きるという経験は、今後の人生で大きな糧となります。